

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	国 語	科 目	現代の国語	学 年	1 年	類 型	普通科
単位数	2	教科書	現代の国語		出版社	数研出版	
副教材	現代の国語準拠ワーク						

学習の到達目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

授業の概要

- ・多彩な論理的文章や実用的文章に触れることで、論理的な思考力や多角的な視点を身に付けることを目指します。
- ・本文の内容（筆者の意図）を正確に読み取る力を育成します。
- ・基本的な言語事項の習得を重視し、語彙力（漢字・慣用表現など）を豊かにすることを目指します。
- ・科目の目標を踏まえつつ、折に触れて様々な言語活動を行います。それらの活動を通して、皆さんに高校生としてふさわしい「話す力・聞く力」や「書く力」といった表現力を育成します。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト（小テスト）・授業時の観察	定期考査・単元テスト・課題作文・授業時の観察など	学習への参加状況・課題などの提出状況・振り返りシートなど
備 考	・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとまりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	「読む」と「書く」/ 書けない日々	- 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 - 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	1 学期 中間考査
	社会と文化/水の東西	- 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 - 筆者の意見を踏まえた事例について粘り強く考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	
	新しい視点/「わらし べ長者」の経済学	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 - 自分の考えが適切に伝わるように、主張や論拠の説明を積極的に補足しながら意見交換を行い、学習課題に沿って自分の考えをさらに深めようとしている。	1 学期 期末考査
2 学期	ことばの働き/ものとことば	- 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 - 筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。	2 学期 中間考査
	環境と科学/科学コミュニケーション	- 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 - 筆者の表現を積極的に読み解いて、その主張を理解したうえで、学習課題に沿って自分の意見を具体的に述べようとしている。	
	人間と時間/時間と自由の関係について	- 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 - 同じテーマの文章を積極的に読み解き、学習課題に沿って自分の考えを発表しようとしている。	
	認識の枠組み/他者を理解するということ	- 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	2 学期 期末考査
3 学期	対比する/デジタルメディア時代の複製	- 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。	学年末考査
	賛否を述べる/命は誰のものなのか	- 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 「書くこと」において、意図に応じて書かれているかを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 - 筆者の意見を参考にしながら、積極的に根拠や具体例を用いて論理を構成し、学習課題に沿って自分の意見をまとめようとしている。	
	意見を述べる/無痛化する社会のゆくえ	- 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 - 関連する二つの論理的文章を積極的に読み比べることで自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。	

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	国 語	科 目	言語文化	学 年	1 年	類 型	普通科
単位数	3	教科書	言語文化		出版社	数研出版	
副教材	準拠ワーク・これからの古典文法・新明説漢文・新訂版常用国語便覧（浜島書店）						

学習の到達目標

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
- (3) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

授業の概要

- ・本校では、学習の習熟の程度に応じて習熟度別編成を行い、わかりやすいきめ細かな授業を行います。どの講座も進度は同じですが、学習の習熟に応じ、指導方法などを工夫します。
- ・読みやすい古文や漢文の作品を取り上げ、古典に対する親しみを持ってもらうとともに、日本の言語文化への興味や理解を深めていくことを期待します。
- ・大学進学を見据え、古文と漢文の読解力の向上を目指します。そのために必要な文法や句法を基礎から丁寧に説明し、定期的な小テストにより、確実な学力の定着を図ります。
- ・近現代の小説を取り上げて、物語の内容や構成・展開を把握し、共感したり想像したりする能力を高めて、言語感覚を磨くことを期待します。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	・「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト（小テスト）・授業時の観察	定期考査・課題レポート・授業時の観察など	学習への参加状況・課題確認テスト（小テスト）・課題テキスト提出など
備考	・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとまりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	説話 随筆(一)	・ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・ 積極的に登場人物の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	1 学期 中間考査
	入門 故事	・ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・ 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 ・ 故事成語の用例を調べて発表する課題において、粘り強く用例調査に取り組んでいる。	
	近代小説(一)	・ 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。 ・ 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・ 積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って自分の考えを文章にしようとしている。 ・ 粘り強く『羅生門』と『今昔物語集』の差異を見極め、学習課題に沿って考察しようとしている。	1 学期 期末考査
2 学期	歌物語 物語	・ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している ・ 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・ 粘り強く地の文と和歌の関係性を読み解き、今までの学習を生かして本文全体を解釈しようとしている。	2 学期 中間考査
	史伝 漢詩	・ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・ 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 ・ 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って調査・発表に取り組んでいる。 ・ 由来について諸説ある漢語「葡萄」「琵琶」の語源説を調べる活動において、粘り強く調査に取り組んでいる。	
	近代小説(二)	・ 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。 ・ 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができている。 ・ 積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って自分の考えを文章にしようとしている。 ・ 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って考察しようとしている。	
	日記文学	・ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・ 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・ 粘り強く本文の内容を読み解き、今までの学習を生かして構成を整理しようとしている。	2 学期 期末考査
3 学期	軍記物語	・ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・ 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 ・ 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って調査・発表に取り組んでいる。 ・ 「雑説」の執筆背景を調べる活動において、粘り強く調査に取り組んでいる。	学年末考査
	思想 雑説	・ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・ 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 ・ 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って調査・発表に取り組んでいる。 ・ 「雑説」の執筆背景を調べる活動において、粘り強く調査に取り組んでいる。	
	近代小説(三)	・ 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。 ・ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・ 人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。 ・ 『山月記』と『人虎伝』の違いとその理由を粘り強く検討し、これまでの学習を生かして考察しようとしている。	